



新小岩幼稚園・未就園児クラス

アドバイザー 猪之鼻晴子

『 きょうだいげんかについて 』

6人きょうだいの真ん中の次女は世渡り上手。

クラスのお友達のケンカも仲裁役をやっているようなので、聞いてみた。

「どうしてあなたはケンカにならないの？」

次女「どうしてあんなことでみんながケンカになるかわからない。だって…  
うちで365日誰かとケンカしているから。」と答えた。

きっと家の中でケンカしているうちにいつのまにかケンカ上手になり、ケンカ  
にならない方法も身に付けてしまったのだろう。

よく、家の中では弟や妹に意地悪で泣かせてばかりの子が幼稚園や学校では  
「年下の子の面倒をよく見てくれていますよ」と先生に言われて驚いたという  
話を聞く。「いや、そんなはずはないですよ」とびっくりするという。

子どもは家の中では気持ちを出し合い、ぶつかり、泣きわめく。

それは、きょうだいならごはんの前にはケロツとしていたり、起きたら普通の顔が  
できるから。遠慮することなく、ケンカを仕掛けられるのだ。

親とすれば、うるさくて仕方ないし、この子はこれじゃ友だちに嫌われるだろうと  
心配する。いちいち仲裁役をしてほとんど疲れ果ててしまう。

私も長男が長女をいじめているような気がしてケンカの度に怒っていた。

「この子は絶対に友だちができないだろう。」と胸を痛めていた。

しかし、どんどん子どもが生まれて、いちいち口出しするのが追い付かなくなった。

それで気づいたことは、「私が仲裁しようとしてまいとケンカは続く」ということ。

子どもは家という教習所でまずはゴーカートで運転を覚えているのではないだろうか。

幼稚園のお友だちもきょうだいの延長なのだろう。ひとりっこも末っ子もケンカをする。

決まって子どもは近い子とケンカをする。おとなから見たら「あの子とはケンカになるの

だから近づかなければいいのに」と思う子に吸い寄せられるように近づいてぶつかる。

子どもは自分自身は気づかなくても自然と友だちの中からきょうだいのような相手  
を見つけているのかもしれない。

いずれ大きくなって教習所から本当の道路で運転をするようになる。

その時のために小さな怒りや傷を作りながらたくさんのかんことを身に付けている最中なの  
だと思ふ。その間親という教官は心配して謝ってばかりだけれど。

5番目のジョウが3才のころに「なんでこのうちに生まれてきたの？」と訊いたところ。

「カイちゃん(兄)とケンカしたいから」と答えられて笑ったことがある。

最高のケンカ相手に恵まれて幸せなのかもしれない。

今小6と中3の二人は親友のようにくっついて何かコソコソ話している。

ケンカになったら。うるさいついでに掃除機でもかけよう。